



日時： 2017年7月10日(月) 13:00～17:30
会場： くまもと森都心プラザ ホール、多目的室
(熊本県熊本市西区春日1丁目14-1
／電話096-355-7400)

対象者： 図書館関係者および地方自治体防災担当者
など。一般の方々の参加も歓迎します。

主催： 図書館総合展運営委員会

後援： 防災科学技術研究所／熊本市教育委員会／
日本図書館協会／専門図書館協議会／
全国学校図書館協議会

■プログラムと進行

9:30(開館)～ プラザ図書館自由見学(11:00より河瀬館長による質問タイム開設)
12:00～13:00 フォーラム受付／展示見学

【第1部 講演／協賛社紹介】

13:00～13:10 開会
13:10～14:00 「災害の記録を防災の糧に ～災害アーカイブの在り方～」
●講師：堀田弥生((前)防災科学技術研究所 自然災害情報室、(現)全国市有物件
災害共済会防災専門図書館)
14:00～14:50 協賛企業・団体の最新技術・サービス・事業紹介
14:50～15:20 (休憩)展示見学

【第2部 分科会】

15:20～16:30 第1分科会「活用される災害データ——災害対応支援の実際」
●講師：佐野浩彬(防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門)
●司会：鎌倉幸子(アカデミック・リソース・ガイド株式会社)
第2分科会「図書館の減災対応——具体的な事例より」
●講師：西山広成(益城町交流情報センター(ミナテラス)所長)
●講師：西村まみ(益城町図書館司書(非常勤))
●講師：松本和代(菊陽町図書館 図書館係)
●コメンテーター：矢賀部 仁(金剛株式会社)
●司会・コーディネーター：山田美幸(熊本学園大学商学部 講師)
第3分科会「熊本の震災アーカイブにおけるMLA連携を考える」
●講師：橋本竜輝(天草市総務課天草アーカイブズ管理係)
●講師：甲斐由香里(熊本市立熊本博物館 保存科学担当)
●司会：河瀬裕子(くまもと森都心プラザ図書館 館長)
16:30～17:00 (休憩)展示見学

【第3部 まとめ】

17:00～17:30 「まとめの会：部会報告など」

18:30～20:30 レセプション：有料／べいあのPLUS (熊本県熊本市中央区新市街1-3ホクショウビル4F)

〈第1部 講演〉

【災害の記録を防災の糧に ～災害アーカイブの在り方～】

堀田弥生((前)防災科学技術研究所 自然災害情報室、(現)全国市有物件災害共済会 防災専門図書館)

◆講師紹介

ほった やよい。水害地形研究者のアシスタント(1991)→防災専門図書館利用者(2001)→防災科研自然災害情報室(2002)→防災専門図書館(2013)と、気づけばこの道26年。子どもの頃には、近所の山が噴火したらどうしようと思っていました。三つ子の魂百までも。

専門図書館の司書は水先案内人のようなもので、研究者ではありませんが、資料の所在に関しては専門家であることを求められます。専門図書館から「見つかりません」、「分かりません」と言われたら、利用者は次にどこを当たればいいのかのでしょうか。私たちは利用者に対し後がない、いつも背水の陣で臨んでいます。例えお探しの資料が見つからなくても、代替となる資料やヒントになりそうな情報を探し出し、何かしら「お土産」をお持ち帰りいただくことをモットーにしています。今日も「アーカイブを創るには？」というレファレンスを受けたつもりでお話します。

災害資料の所在でいえば、もっとも集積するのは被災地の図書館です。私たちは離れた場所から収集することの限界を知っています。すべての災害資料を一か所に集めることは不可能であり、だからこそ互いにその所在を、特徴を知っておきたい。そうすれば、利用者には「当館にはありませんが、●●図書館にはありますよ」、とご案内できるかもしれません。

被災地の図書館には、もともと郷土の歴史を残す・伝えるという役割があります。そこに災害アーカイブをつくるというこれまでに体験したことがない新規の業務が加わります。そしてそう遠くない将来、被災体験のない世代や移り住んだ人に対して被災の歴史を伝えることになる。その時に必要なもの、それが今集めたい資料や記録ではないでしょうか。東日本大震災や阪神・淡路大震災など先に起こった災害の被災地では、すでに被災の伝承に取り組んでおり、そのノウハウが熊本でも参考になります。そして、先行事例の課題は重要な示唆を含んでいます。熊本のアーカイブの未来の姿は、先行するアーカイブの現状の中に垣間見ることができるのではないのでしょうか。

そのような観点に立ち、講演では災害アーカイブの構築や災害資料収集、「災害資料アーカイブを構築する機関のためのメーリングリスト」、先行するアーカイブ等についてご紹介していきます。「まだ1年」、「もう1年」。今が資料発行のピーク期、地域をあげて収集に全力投球する時です。

【協賛企業の最新技術・サービス・事業紹介】

図書館関連のサービス・事業をもつ企業9社が、各社持ち時間5分でプレゼンテーションします。
※発表順は当日きまりますので、以下のとおりではありません。

- ・朝日新聞社
- ・(株)内田洋行
- ・(株)岡村製作所
- ・キハラ(株)
- ・金剛(株)
- ・(株)図書館流通センター
- ・フィルムルックス(株)
- ・(株)ブレインテック
- ・アカデミック・リソース・ガイド(株)

佐野浩彬(防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門)
司会:鎌倉幸子(アカデミック・リソース・ガイド株式会社)

◆講師紹介

さの ひろあき。自然災害による被害を軽減するためには、平常時・災害時に限らず、災害に関する様々な情報を有効に活用し、対策・対応を講じることが重要です。災害に関する様々な情報を上手に活用し、情報に基づいた災害対策につなげていくためにどうするべきかといった研究に取り組んでいます。

防災科学技術研究所(防災科研)では2016年4月14日午後9時26分ごろ、熊本県で発生した地震を受け、熊本県庁へ研究員を派遣し、災害対応の一環として地図情報の作成・集約・共有による情報支援を実施しました。災害時には様々な機関から様々な情報が発信されていきます。それらは災害関連の有効なデータとして蓄積されますが、利用者にとっては点在する情報を有効に活用することが難しいといえます。それを解消するための1つの方法が、情報を地図で表現できるかたちに変換して可視化することです。

熊本地震で扱われた地図情報の中には、防災科研が独自に行っている地震や液状化、降雨、火山、土砂災害などの観測・予測データや、熊本県庁から提供された道路規制情報や避難所情報、通水復旧のインフラ情報などがあります。それらの情報を、インターネットを通じて活用できる地図ツール(Web-GIS)に統合し、俯瞰的な被害状況を把握できる仕組みを構築し、実際の災害対応業務に資する情報提供を行いました。各種情報が集約された地図は、防災科研が構築した「熊本地震クライシスレスポンスサイト」において公開したほか、避難所情報などの公開が難しい一部の情報については、熊本地震災害対応にあたる特定機関向け地図を構築して提供しました。

このように、利用者・閲覧者に情報をわかりやすく伝える方法として、地図を用いることはとても有効とされています。とくに災害時といった緊急事態においては、地図を用いることで有用な情報提供が可能となります。しかしながら、災害対応支援に役立つ情報は、地図情報だけではありません。文字で書かれた情報も、表で整理された情報もとても重要な情報です。また、災害が発生したそのときだけ、必要な情報が生まれてくるわけではありません。すでに世の中で発信されている情報も災害対策や災害対応に役立つ情報がたくさん含まれています。そして、それらは書籍等として、図書館に所蔵されている資料も該当します。

図書館に所蔵されている書籍なども有用な情報に含まれるため、災害関連の情報・データはさらに多くなります。これら数多くの有用な情報・データを適切に活用するために、防災科研では現在、情報を引き出すための検索サービスの検討や、利用者に応じた情報・データの標準的な活用方法について研究を行っています。日本の多くの図書館ではOPACの機能を活用し、利用者が求める書籍にたどり着きやすくしています。災害関連の情報・データをうまく活用するためには、既存のノウハウを活かした検討・連携が必要になります。講演では、図書館と研究機関など、組織間の連携や、情報・データの活用について考えていきたいと思います。

西山広成(益城町交流情報センター(ミナテラス)所長)

西村まみ(益城町図書館司書(非常勤))

◆講師紹介

にしやま ひろなり。平成28年4月に図書館長に就任。その2週間後に熊本地震に遭遇。以後、避難所運営を行いながら、図書館復旧を行う。また、図書館として熊本地震の教訓を後世に残す役割や資料の収集などの活動を司書とともにしている。

◆講師紹介

にしむら まみ。在勤6年。郷土資料担当を機に益城町の郷土史を学びながら、震災資料収集の主担当となる。益城町木山在住。熊本地震により、自宅、実家、親戚、5軒ともに全壊。自宅以外は解体済み。自宅は全壊だが、屋根修理、室内改修、ジャッキアップによる基礎構造の応急措置により、居住中。

●講演概要(目次)

- ・熊本地震発災から再開館までの様子
- ・館内の減災対応事例
- ・地震関連資料収集事業「震災文庫」の展開
- ・地震関連イベント報告
- ・地震関連最新情報の開示等、いま現在の様子

●来場者の皆さまへのメッセージ

阪神・淡路、東日本大震災を経て蓄積・重層化された経験や資料が、平成28年熊本地震において有益に活用されたことは言うまでもありません。

熊本では明治22年に今回と類似した地震の経験がありました。しかしこの地震を世に伝える手段があまりにも少なく、人々の危機感は薄弱でした。昨年12月に、一人のジャーナリストの日記の現代語訳が127年ぶりに刊行されています。

天の災いに対し、人の力は微力です。この災いに立ち向かうには人の叡智と絆が最大の武器になるのではないのでしょうか。この度、私達は家や家族、美しい風景をなくしました。その一方で多くの支援を享受しました。この事実を資料として収集し後世に伝授していく事が私達司書にできる小さな役目です。そこで皆様に、未曾有の地震を物語る写真(定点観測が望ましい)や手記、関係資料等の提供をお願いしています。皆様の記憶や記録が最も大事な素材です。その種を司書が分類・保管し永久に残る益城町の新たな郷土資料・地域資料に育てます。

地震から1年が経ち、自宅再建を待ち望んでいる住民の中には、先の見えない不安と戦っている方が多数おられます。復興に向けた取り組みは住民が望む姿になっているでしょうか？住民目線、被災者目線で、復興までの軌跡を淡々と永続的に記録としてのこしていけたらと思っています。

どうか、みんなで手を取り合って震災文庫を作ることができますように。

松本和代(菊陽町図書館 図書館係長)

◆講師紹介

まつもとかずよ。宮崎市出身。宮崎市立図書館、宮崎県立美術館での嘱託職員を経て、2004年菊陽町役場で司書職として採用、菊陽町図書館に配属。2017年4月より現職。日本図書館協会認定司書。

◎菊陽町図書館における熊本地震後の対応について

平成28年4月14日21時26分、前震発生。菊陽町では震度5強を観測。

4月16日1時25分、本震発生。菊陽町では震度6弱を観測。

菊陽町図書館は図書館内は建物等の大きな被害はなかったが、防煙垂れ幕の破損と図書の落下で散乱した状態だった。

図書館部分は4月16～20日は休館して4月21日に再開するが、併設しているホールは、天井の落下による座席の破損、音響反射板の破損などの被害が出たため、修理工事で7月末まで休館を余儀なくされた。8月から全面開館したが、近隣のホールが使用できないため、問い合わせの電話も多くフル稼働している状態である。

スタッフ間で話し合ったり、アドバイス等を受けながら、地震情報掲示板、館内の注意喚起や非常口の案内を作成。地震情報掲示板は内容や発信する情報を変え現在も継続中。町内のみなし仮設にお住まいの方に広報誌や被災者支援メニュー、復興計画を設置。

コメンテーター:矢賀部 仁(金剛株式会社 管理本部復興計画室 室長(戦略担当))

◆コメンテーター紹介

やかべ ひとし。平成8年 金剛(株)入社。東京にて自治体、大学図書館などの営業を担当。平成25年 熊本の本社へ異動し、社長室長として秘書業務、広報業務にあたるなかで、情報誌“PASSION”の制作を担当。現在は、熊本地震により被害を受けた工場建屋・設備等の復旧や、事業計画の策定等を目的として新設された復興計画室に所属し事業戦略策定の任にあっている。

昨年4月、熊本は連続する2度の激震に見舞われ大変な被害を被りました。熊本市に本社・工場を置く当社も出荷前の製品が荷崩れしたり、生産設備の一部が損壊するなどして、事業の継続が困難な状況に陥りました。社員と家族の安否確認、水や食料をはじめとした生活物資の確保、損傷した生産設備や建屋の復旧作業、物流ルートの確保、県下納入先の修理対応、錯綜する情報の収集と整理…。

様々な業務に忙殺され、一時は大変な混乱を極めました。社員のたゆまぬ努力と、全国の取引先から寄せられる物心両面での支援に後押しされる形で、発災から8日目には全ての生産活動を再開させるに至りました。我々企業にとって事業を中断させることは、我々の製品やサービスをご利用いただいているお客様、そして社会に対しての責任を放棄することに他なりません。

あのような震災を乗り越えることができたのは、何よりも人の繋がりのお陰であったと深く感謝しております。震災後にまとめた自社の情報誌“PASSION Vol.38”では、被災地の図書館の復旧への歩みをはじめ、地域住民に向けた復旧支援情報の発信や、震災資料の収集活動などといった、被災地の図書館の新たな取り組みを取材させていただきました。

災害からの復旧、事業継続において、人の繋がりが最大の支えになること、そして、災害を乗り越えた先には更なる強さと新たな価値が芽生えることは図書館も企業も同じであると強く実感しております。図書館を応援する企業として、震災を経験した熊本の企業として、これからも図書館の皆さんとともに成長していきたいと考えております。

司会・コーディネーター:山田美幸(熊本学園大学商学部 講師)

◆司会・コーディネーター紹介

やまだ みゆき。図書館情報大学大学院図書館情報学研究科修了。九州大谷短期大学、上田女子短期大学を経て、2004年より現職。熊本地震時には、saveMLAKメンバーとしても各図書館へ聞き取りに巡回する。

「熊本では大きな地震は起きない。」こう言われて、熊本の地で育ちました。そして、昨年4月。前震時に熊本市内の自宅にて、本震を実家(玉名市)で被災しました。図書館自体も被災にあう中で、震災時のコミュニティに図書館として何ができるのか。逆に、被災をできるだけおさえるために、図書館は平時にどのようなことができるのか。みなさん、一緒に考えましょう。

〈第2部 第3分科会〉

【熊本の震災アーカイブにおけるMLA連携を考える】

橋本竜輝(天草市総務課天草アーカイブズ管理係)

甲斐由香里(熊本市立熊本博物館 保存科学担当)

司会:河瀬裕子(くまもと森都心プラザ図書館 館長)

◆講師紹介

はしもと たつき。2000年に旧河浦町役場に一般職として入庁。2006年4月には市町合併により天草市職員となる。2008年4月から現職である天草市総務課天草アーカイブズ管理係に勤務し、公文書館における行政資料(公文書)の管理全般を担当している。

◆講師紹介

かい ゆかり。2013年4月より現職。現在は、博物館のリニューアル業務に携わる中、空気環境や人・資料に優しい環境づくりに取り組むほか、熊本博物館を含む県内にある黒川紀章建築物、震災アーカイブにも関心を寄せている。

◆司会紹介

かわせ ゆうこ。学校図書館、民間企業での勤務を経て、鹿本図書館(現山鹿市ひだまり図書館)・益城町図書館の開館準備に携わる。2011年10月よりくまもと森都心プラザ図書館副館長。2016年4月より現職。日本図書館協会認定司書。

総合司会:鎌倉幸子(アカデミック・リソース・ガイド株式会社)

◆司会紹介

かまくら さちこ。2015年1月よりアカデミック・リソース・ガイド株式会社スタッフとして、図書館等の施設づくりの支援を行っている。前職で東日本大震災発生後、図書館が被害を受けた岩手県沿岸部で移動図書館を行った経験から防災・減災と図書館をテーマに講演や助言を行う。

東北に生まれ育ち、あのような大きな地震がくることなど官が図に生活をしていました。2011年3月11日に発生した東日本大震災は家屋のみならず公共図書館にも大きな被害をもたらしました。その中で人々はどのような情報を求め、図書館に何を期待したのか。そして図書館は何を提供できるのかを皆さまと一緒に考えるきっかけとなればと思います。また誰も望みませんがいつ、どこで自然災害が起こるかわからない日本において、備えるべきもの・ことについて共有することで、防災につながることを願っています。

〈レセプション〉

時間：18:30～20:30

会場：ぺいあのPLUS（熊本県熊本市中央区新市街1-3ホクショウビル4F

tel:096-322-6813）熊本市電 花畑町下車

参加費：5,000円(税込)

※申込みされていない方でご参加を希望される方は事務局スタッフまでお申し付けください。



この後の予定。皆さまのご来場、ご参加をお待ちしております。

■図書館総合展2017 フォーラムin安城

日時：2017年9月23日(土・祝)

会場：安城市中心市街地拠点施設アンフォーレ(JR安城駅前)

■第19回図書館総合展 教育・学術情報オープンサミット／公共施設複合化フェア2017

日時：2017年11月7日(火)～9日(木)

会場：パシフィコ横浜(神奈川県横浜市西区みなとみらい)

☆情報発信することでより、より多くの情報が得られる展示会☆

「来場者が会場内で発信する側になる参加型企画」を用意しております(各種目とも企画参加は無料)。

- 新館さん、いらっしやい！／●地方創生レファレンス大賞／●こんなにあります、あなたも使える専門図書館
- 全国の災害アーカイブ実施図書館／●図書館キャラクター・グランプリ／●全国学生協働サミット

詳しくは、図書館総合展公式webサイトまで <https://www.libraryfair.jp/>